



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)
ニューズレター (2013年度 No. 3)
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆HC賞授賞のご報告
- ◆HCGシンポジウム2013開催のご報告
- ◆2014年総合大会開催のご案内
- ◆FIT2014 (第13回情報科学技術フォーラム) 投稿のご案内
- ◆電子情報通信学会 (和文論文誌A) HC特集号 (H27年 1月号) 投稿のお願い
- ◆研究会活動報告 (HIP研究会)
- ◆研究会活動報告 (ADD研究会)

HC賞授賞のご報告

HC庶務幹事
川本一彦 (千葉大)

平成25年度ヒューマンコミュニケーション (HC) 賞授賞式が、平成25年12月19日のHCGシンポジウム2013懇親会会場 (於: 愛媛大) にて開催されました。受賞者には、賞状と副賞としてクリスタル盾が贈られました。本年度の選考では、平成24年10月から平成25年9月に開催された第一種研究会 (HCS, HIP, MVE, WIT) で発表された326件の技術研究報告が選考対象となりました。これらの報告のなかから、各専門研究委員会に設置された選考委員会の厳正なる審査のもと5件が選ばれました。例年、多くとも50件に1件という基準で選考しており、本年度は上位1.5%に入らなければ受賞できず、この意味ではHC賞はヒューマンコミュニケーショングループが授与する賞のなかでもっとも権威が高い賞と言えます。

本年度の受賞研究は、1) 味覚と触覚の感覚間情報統合、2) テレビ電話システムに関する5年間にもわたる事例研究、3) 脳電位活動計測によるあくび伝染の解析、4) 高齢者に適した音調整装置の開発、5) ボーカル入り楽曲からのBGM信号抽出アプリの開発、に関するものです。それぞれ、ヒューマンコミュニケーションという非常に扱いにくい研究領域に対して、挑戦的なテーマ設定やアプリケーションとしての面白さや完成度といった観点から評価されており、ヒューマンコミュニケーショングループの特色が十分に出ている研究です。受賞一覧につきましては、下記URLよりご覧いただけます。原稿もあわせてぜひご覧ください。

<http://www.hcg-ieice.org/archives/hc-awards/>

HCGシンポジウム2013開催のご報告

HCG企画幹事
今井順一 (千葉工大)

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) 主催のHCGシンポジウム2013は、愛媛県松山市にある「松山市総合コミュニケーションセンター」にて2013年12月18日 (水)～20日 (金) の日程で開催されました。今回は参加者205名、研究発表108件と過去最大の規模となり、例年以上に活気溢れるシンポジウムとなりました。

今回のシンポジウムでは、研究交流を横断的かつ濃密に行うため、すべての口頭発表者に対してインタラクティブ発表枠が付与されました。プログラムの都合上聴講できなかった発表についてもインタラクティブセッションにおいて議論できるようになり、大変ご好評をいただきました。また、新しい企画として3件のオーガナイズドセッション (「コミック工学」、「ユーザセンタードデザインとデザイン思考」、「空気メディアの現状と展望」) が開催されました。ホットなトピックの研究発表が一堂に会し、活発な議論や意見交換が交わられました。

シンポジウム2日目は2件の招待講演がありました。1件目は「おいしさの構造と客観的評価」と題して京都大学の伏木亨先生のご講演でした。身近な感覚である「おいしさ」について、その要素や構造のモデル化、評価方法などを実例を挙げながらお話いただきました。また、続けて食メディア研究会による企画セッションが開催され、情報メディアで「おいしさ」を創ることの可能性について議論が行われました。2件目は「大規模Webデータと実世界データの融合」と題して東京大学の豊田正史先生のご講演でした。Webと放送映像の相互作用分析や、ツイッターでの情報拡散等を例としたWebデータと実世界データの融合分析について、研究成果をもとにお話いただきました。いずれの招待講演も大変好評で、講演後の質疑応答も盛り上がりを見せました。

今回のシンポジウムは、山口県下関市にある「海峡メッセ下関」にて2014年12月17日 (水)～19日 (金) の日程で開催する予定です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

2014年総合大会開催のご案内

HCG企画幹事
大塚真吾 (神奈川工科大)

2014年電子情報通信学会総合大会の開催をお知らせいたします。今年は新潟市にある新潟大学において開催されます。

会場: 新潟大学 五十嵐キャンパス
会期: 2014年 3月18日 (火)～21日 (金)
(懇親会・授賞式は 3月19日 (水) の夜にキャンパス内食堂にて開催予定)

最新情報につきましては下記をご覧ください。

http://www.toyoag.co.jp/ieice/G_top/g_top.html

電子情報通信学会では、春に総合大会を、秋にソサイエティ大会を開催しております。総合大会はヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) を含む4ソサイエティ1グループが一堂に会して開催されます。総合大会では例年、多数の企画セッションが開催され、今大会においても61件の企画セッションが提案されております。HCG関連では、ヒューマン情報処理研究会 (HIP)、未来世代から見たコミュニケーション科学の魅力と学習意欲向上研究会 (CML) より、以下の2件の企画セッションが予定されております。

- ・「空間完成」を拡張する人間情報処理研究の最先端 (HIP)
オーガナイザ：坂本修一 (東北大学)
- ・(結) 楽しい学び実現?—コミュニケーションの基本の理解の上の一
オーガナイザ：小粥幹夫 (魅力と意欲の研究会)

また、大会期間中には平成25年度学術奨励賞授賞式も行われます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

FIT2014 (第13回情報科学技術フォーラム) 投稿のご案内

HCG企画幹事
今井順一 (千葉工大)

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)、情報・システムソサイエティ、及び情報処理学会が共催するFIT2014 (第13回情報科学技術フォーラム) をご案内申し上げます。今回は筑波大学筑波キャンパス (茨城県つくば市) において開催されます。

会期：2014年 9月 3日 (水)～5日 (金)
会場：筑波大学 筑波キャンパス (茨城県つくば市)

[スケジュール]

査読付き論文受付開始：3月 5日 (水)
査読付き論文受付締切：4月16日 (水)
一般論文受付開始：4月23日 (水)
一般論文受付締切：5月22日 (木)
聴講事前予約申込開始：5月23日 (金)
聴講事前予約申込締切：7月11日 (金)

最新の情報は下記のURLをご参照ください。

<http://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2014/>

査読付き論文は厳正な査読に基づき採択論文が決定され、優秀な論文は電子情報通信学会論文誌及び情報処理学会論文誌へ推薦されます。また、査読付き

論文の中から特に優秀な論文3件程度が船井ベストペーパー賞に、優秀な論文数件程度がFIT論文賞に選定されます。さらに一般論文を含むすべての発表の中からFITヤングリサーチ賞が選定されるほか、前回のFIT2013からはセッションごとに優秀な発表1件を選定するFIT奨励賞が創設され、受賞の機会がさらに増えることとなりました。

ご参考までに、鳥取大学鳥取キャンパス (鳥取市) で開催されたFIT2013では、参加者1,301名、講演申込数は704件 (査読付き論文75件、一般論文629件) で、いずれも質の高い研究成果が発表され、活発な議論や意見交換が交わされました。皆様のご講演申込、並びにご参加を心よりお待ちしております。

電子情報通信学会 (和文論文誌A) HC特集号 (H27年 1月号) 投稿のお願い
HC特集号編集委員長
岩井将行 (東京電機大)

情報通信技術 (ICT) は急速に発展、普及し、我々の日常生活に欠かすことのできないものとなっています。このICTの発展は、日常生活と密接に関係している医療福祉や環境保全などの情報インフラ構築に恩恵をもたらしています。少子高齢化、省エネ、ヘルスケア、心のケアが注目されている現代において、この状況を生かし、社会及び個人にとってより価値の高い生活環境を構築するための利用現場の声も反映した情報技術の研究が望まれています。この分野の研究のカバーする分野は幅広く、人間の感覚・心理から、集団行動、ソーシャルコミュニケーション、福祉、医療など日常生活に密着した技術、さらに、多様なメディア、仮想環境、モバイル環境から、ICT倫理まで様々です。このような幅広い分野の最新の成果を横断的に議論する必要性から、ヒューマンコミュニケーショングループでは、国内への情報発信強化を目的に、和文A特集号「ヒューマンコミュニケーション」～人々の生活を幸せで豊かにしていくICTとコミュニケーション～ (平成27年 1月号) を企画いたしました。

本特集では、人間の知覚、認知、メディア処理、人工現実感、ヘルスケア、支援技術、センシング技術、サービスデザインまでの幅広い分野からの論文を募集します。ヒューマンコミュニケーションの視点から様々な技術を統一的に俯瞰することで、価値ある生活環境構築を実現するための議論となることを期待します。

■対象分野

- ・ヒューマンコミュニケーション基礎
- ・ヒューマン情報処理
- ・マルチメディア・仮想環境基礎
- ・福祉情報工学
- ・Web インテリジェンスとインタラクション
- ・先端医科学技術
- ・発達障害支援
- ・ヒューマンプロンプト
- ・食メディア
- ・ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション
- ・人間とICT倫理

- ・未来世代から見たコミュニケーション科学の魅力と学習意欲向上
- ・人と場所のつながりデザイン
- ・その他ヒューマンコミュニケーション全般

■投稿締切

平成26年 3月28日 (金) 厳守

詳細はこちらにも掲載してあります。

<http://www.hcg-ieice.org/>

■編集方針

編集方針は和文論文誌Aの編集方針と同一です。ヒューマンコミュニケーション分野は新しい研究領域であることから、この分野の研究を刺激し、発展させる先導的な研究成果をいち早く採録するために、信頼性はもとより、新規性・有効性に重点を置いた編集方針を採ります。

特に (1) 研究における問題設定・着眼点・コンセプトの新しさ, (2) ヒューマンコミュニケーション分野を発展させる有用な知見の有無, (3) 既存の研究・製品・サービスに対する研究の位置付けの3点を新規性・有用性の評価において判定します。信頼性に関しては、上記の主張点の妥当性を判断する根拠が客観性の下、論理的に示されていることを確認する方針とします。

幅広い分野からの多数の方々の積極的な御投稿をお待ちしております。

研究会活動報告 (HIP研究会)

HIP研究専門委員長
金子寛彦 (東工大)

HIP研究会では、人間の感覚知覚の特性の理解、メカニズムの解明、そしてその応用技術に関する研究の発展を目的として、年5回の研究会を開催しています。各回異なるテーマを設定して、感覚知覚に関わる多岐の分野をカバーしています。ほとんどは、一般講演、招待講演を含めて発表件数15件程度、2日間の研究会になります。また、工学的分野の研究者のみならず、心理学や医学、生理学、生物学などにバックグラウンドを持つ、異なる分野の研究者の交流の場にもなっております。

2013年度の活動に関して、2013年 5月には、「コミュニケーション支援」をテーマとした研究会を沖縄で開催し、7月には「バーチャル空間・特殊空間の知覚・認知」および「多感覚知覚」をテーマとした研究会を新潟で開催しました。9月には「眼球運動と視覚情報処理」「眼球運動の制御・計測」「調節・瞳孔の機能」をテーマとした研究会を京都で開催し、開催場所であったNICT (情報通信研究機構)の見学会も開催しました。11月には「マルチモーダル」「感性情報処理」「視知覚とその応用」をテーマとした研究会を仙台で開催し、2014年 3月には、「力触覚、手」をテーマとした研究会を東京で開催予定です。以上のテーマを見ていただければ、通常は、視覚、聴覚、触覚といったそれぞれ異なる研究会、学会で対象としているテーマを、感覚知覚という横断的な切り

口でまとめた研究会となっていることがお分かりになると思います。そして、その中には基礎的な研究から、応用的な研究まで含まれます。このようにHIP研究会は、研究対象や目的に関して異文化交流を行う場であり、その中で新たな視点や発想が生まれ、研究の大いなる発展が期待できると考えております。

今後、人間の感覚知覚の理解やメカニズムの解明、そしてそれを踏まえた人間情報システムの大いなる発展を目指して、活動を続けていきたいと思っております。もし、HIP研究会に少しでもご興味をお持ちになりましたら、是非ともご参加下さい。HIP研究会では、人間や生物の感覚知覚に関連があれば、対象や目的に関わらずどのような研究でも歓迎いたします。

研究会WEBサイト：<http://www.ieice.or.jp/~hip/>

研究会活動報告 (ADD研究会)

ADD研究専門委員長
縄手雅彦 (島根大)

■ADDとは

発達障害支援研究会 (ADD: Assistance for Developmental Disorder) は2008年12月に第二種時限研究会として発足いたしました。昨年度に文部科学省が公表した統計調査において、普通学級に在籍する児童・生徒のうち6.5%に発達障害に起因する何らかの困難が見られ、それらの約4割に相当する児童・生徒が依然として特別な支援を受けていないということが示されています。また、2007年度から始まった特別支援教育によって学校で制度上の対策は進んでいるように見えますが、依然として支援に関する専門的な見地からのアドバイスなどは十分とは言えない状況が続いています。そのような中で、ADDでは、医療機関や支援機関、教育機関を中心とした研究機関において発達障害の原因究明、発達支援、教育支援などについて地道な研究が進行していることから、工学系の研究者が認知科学、神経科学、言語学、福祉情報工学、コミュニケーション科学、教育学、ヒューマンインタフェースなど情報通信技術 (ICT) を駆使して、支援に関する諸問題に取り組む活動を行っています。発達障害児 (者) の早期発見と適切な発達支援方法の確立を目指して、医療、療育、教育など診断や発達支援をしたりしている現場とHCGに参加する研究者とを融合した学術的発表と相互議論・交流の場を提供することを目的としています。

■ADDの活動のテーマ

ADDの取り扱う主なテーマとしては、発達障害、自閉症、注意欠陥多動性障害、アスペルガー、学習障害、視覚認知、聴覚認知、言語理解、神経科学、発達支援、学習支援などです。これらのテーマを医療、療育、教育分野とHCGの分野とでさまざまな視点から議論を行ってまいります。

■これまでの活動

6年目を迎えたADDですが、これまで年1回程度の研究会を中心に、その時々興味深いテーマについての勉強会を組み合わせる形式で進めてきました。当初は、研究者が集まって議論する場の確保が大きな目的でしたので、種々の見学会や意見交換会を企画してきましたが、そのような活動の中で視覚認知や読み書き障害など個別の分野で工学系の技術者と医療・教育機関の関係者との共

